慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	欧洲戦時に於ける通貨、物価、為替相場（下）
Sub Title	
Author	堀江, 帰一
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1917
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.11, No.6 (1917. 6) ,p.776(70)- 788(82)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19170601-0070

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

歐洲戰時に於ける通貨、物價、爲替相場（下）

堀江歸一

三　佛蘭西に於ける紙幣と物價

佛蘭西の經濟學者シャール、ジード氏は本報告の爲めに、左の一編を草して佛國に於ける紙幣と物價との關係を論述したり。

紙幣の發行は物價の騰貴を惹起したりや。佛蘭西に起れる事實に就て見るときは、必ずしも然らざるものあるやに想像せらる。蓋し佛蘭西は交戰諸國中最も多額の銀行紙幣を發行し、千九百十六年四月十日の發行高は百五十億法を超へ、曩に百五十億法より百八十億法に引上げられたる紙幣發行高の制限に接近することも亦近きに在る可く、紙幣增發の盛なるは、露西亞銀行と略ぼ同樣にして、英蘭銀行幷に獨逸帝國銀行を凌駕するものあり。故に紙幣の增發が物價の騰貴を惹起すものとすれば、物價は佛蘭西に於て他の諸國に於けるよりも一層高かる可きの道理なるに、事實は其反對にして、英國に於ける騰貴率十五割、獨逸に於ける騰貴率一倍に對して、佛蘭西の騰貴率は三割五分に止まれり。然らば紙幣の發行は物價に何等の影響を及ぼさゞりしやと云ふに、是れ亦當らず、唯佛蘭西に於ては、紙幣の增發の物價に及ぼす影響の大ならざりし原因の存したるのみ。

第一、百五十億法の紙幣中、世間に流通したるは、其一部分にして、大部分は保藏せられ、隨て物價に影響を及ぼさゞりき。其保藏せられたるは、世人が千九百十五年四月支拂猶豫法の繼續に驚愕し、之を所有して、租稅の納付に充てんとしたると共に、銀行紙幣を預入れんか、自己の欲する時に、之を引出すを得ざることを恐れたるが爲めなり。第二佛蘭西に於ては貨物の賣買に就て、信用取引の減縮したる一方に、小切手の利用亦少なきを以て、日常の支拂に就て、紙幣を必要とするもの甚だ大にして、殊に戰時の今日に於ては兵卒、官吏、出征軍人の家族に對する支拂の爲めに、其必要の著しきものあり、試に數字に據て、流通中の通貨を計算せんか、金貨の六十億法に紙幣の六十億法を加へたる百二十億法を以て、平時に於ける佛蘭西の通貨流通高とす可し。今や金貨は全然市場より消失し、一方に銀行紙幣獨り流通しつゝありと雖も、百五十億法の紙幣中、三十億法の紙幣は保藏せられつゝありとすれば、殘餘の通貨は必ずしも戰爭前に比較して、大なりとする能はず、是れ通貨が物價に影響を及ぼすものゝ大ならざる所以なり。然れども佛蘭西の紙幣發行高にして增加して已まず、百八十億法の法定制限に達し、又は之を超過するが如きことあらんか、流通高の增加が物價の大なる騰貴を齎らさゞるや否やを研究するの時期に達したりとす可く、此場合には物價騰貴の起るを以て、當然とす可きなり。

戰後に於ては物資の缺乏を來す自然的原因と通貨の膨脹する人爲的原因と併せ備はりて、佛蘭西自耳義共に永く物價騰貴の狀態に居るものと認めざる可からず。第一不生產的消費幷に各種貨物破壞の結果として、戰後原料品又は其以外の產物の缺乏は驚く可き程度に居る可く、佛蘭西北部諸縣の如き、萬般の設備を復舊するに當り、內國に產物を得るに就ても、外國に其供給を仰ぐに就ても、大なる困難を感ず可し、第二戰爭の繼續する間紙幣の流通高は益々增加し而して戰後に之を收縮すること容易ならず。千八百七十年より同七十一年に至る戰爭の後に、佛蘭西の不換紙幣は七箇年間繼續したり。然らば今回の如き大戰爭に於て不換紙幣が少なくと

も十五年又は二十年間繼續するも亦已むを得ざるものとす可し。且つ佛蘭西銀行は國家が銀行より借入れたる資金を償還するまで正貨兌換を復興するに困難を感ず可く、而して此借入金は千九百十六年四月既に七十億法に上り、戰爭繼續中益々增加するに於ては其決濟の時期は容易に之を知る可からず。一方に佛蘭西にして三百乃至四百億法の確定公債を發行する以上は、更に佛蘭西銀行に對する借入金決濟の爲めに、別種確定公債を發行するを好まざる可く、相率ひて正貨兌換を遷延せしむ可し。

四　戰後の經濟狀況

左の一編はジョセフ、キッチン氏の寄稿に係るものなり。

世界に於ける金の累積高が年々の產出額より印度幷に埃及の吸收高、歐洲幷に米國に於ける工業上の消費高を控除したる後に、年々增加するは疑を容る可からざる事實にして、累積高の統計を揭ぐれば左表の如し。

	累積高	世界の人口	一人當
一八一八年	一二〇、〇〇〇、〇〇〇磅	七〇、〇〇〇、〇〇〇	五志　〇片
一八四八年	二一〇、〇〇〇、〇〇〇	九五、〇〇〇、〇〇〇	四　三
一八七三年	五五、〇〇〇、〇〇〇	一、三五、〇〇〇、〇〇〇	九　七
一八九〇年	七一〇、〇〇〇、〇〇〇	一、四三五、〇〇〇、〇〇〇	一〇　一
一九一三年	一、九五五、〇〇〇、〇〇〇	一、七一〇、〇〇〇、〇〇〇	一八　六

故に千九百十五年末に於ける金の累積高は十七億三千萬磅に上り、人口一人當り十九志九片に達す可きを以て、千八百九十年來人口一人當りの金は殆ど二倍と爲り、全體の累積高は二倍以上と爲れることを知る可し。而して千八百四十八年は加利福尼に於ける金鑛發見の年にして又千八百九十年はランド金鑛發見後四年に當り是等の發見後世界に於ける金の累積高は著しく增加し、千八百七十三年乃至千八百九十年に於ては、增加額の輕微なりしを認むるを得べし。今倫敦手形交換所の交換高、外國貿易、納稅者所得、貨幣貨銀等は自ら經濟社會に於ける景氣の良否を示すの標準を以て目せらるゝものなるが、是等の人口に對する一人當り、諸物價幷にコンソル公債の利廻等を見るに、其金の累積高の增減に左石せらるゝことの少なからざる事實を認むるに難からず、其一斑左の如し。

1 金貨總額の人口一人當	一八一八—四八年	一八四八—七三年	一八七三—九〇年
	六〇—五一片三片又は五分の減少	五一—一一五片二片六又は五分の減少	一一五—一二一片四片又は三分の增加
2 倫敦手形交換所交換高一人當	一八一七—四八年四四—五五磅〇・四磅又は八分の增加	一八四八—七三年五五—一八七磅五磅三又は九分六增	一八七三—九四年一八七—一六二磅一磅二又は六分減
3 外國貿易額一人當	一八一九—四八年三磅二—五磅二一志六片又は二分二增	一八四八—七三年五磅二—二一磅三志六片又は一割三分二增	一八七三—九四年二一磅—一七磅四三志六片又は八厘增
納稅者所得一人當	一八一四—五四年八磅—一〇磅九志一志六片又は九厘增	一八五四—七三年一〇磅九志—一七磅六七志又は三分二增	一八七三—九五年一七磅六—一七磅七增減なし
5 貨幣貨銀（一九〇〇年を一〇〇とす）	一八二〇—五〇年六〇—五六一志又は二厘減	一八五〇—七三年五六—八七一志三片又は二分四厘增	一八七三—九五年八七—八九、五一片又は一厘增
物價（サッエルベック）	一八一八—四九年一分五厘減	一八四九—七三年一厘增	一八七三—九六年二分減
7 コンソル公債利廻	一八二〇—五二年四分四二—三分〇三	一八五二—六六年三分〇三—三分四二	一八六六—九七年三分四二—二分四五

1 金貨總額の人口一人當	一八四八—七三年五一—一一五片二片六又は五分の減少	一八七三—九〇年一一五—一二一片四片又は三分の增加	一八九〇—一九一三年一一二—二二二片四片四又は三分六の增加
2 倫敦手形交換所交換高一人當	一八四八—七三年五五—一八七磅五磅三又は九分六增	一八七三—九四年一八七—一六二磅一磅二又は六分減	一八九四—一九一三年一六二—三五九磅一〇磅四又は六分四增
3 外國貿易額一人當	一八四八—七三年五磅二—二一磅三志六片又は一割三分二增	一八七三—九四年二一磅—一七磅四三志六片又は八厘增	一八九四—一九一三年一七磅四—三〇磅三一三志六片又は三分九增
納稅者所得一人當	一八五四—七三年一〇磅九志—一七磅六七志又は三分二增	一八七三—九五年一七磅六—一七磅七增減なし	一八九五—一九一三年一七磅七—二七磅一〇志三片又は二分九增
5 貨幣貨銀（一九〇〇年を一〇〇とす）	一八五〇—七三年五六—八七一志三片又は二分四厘增	一八七三—九五年八七—八九、五一片又は一厘增	一八九五—一九一三年八九、五—一〇六、五九片又は一分一厘增
物價（サッエルベック）	一八四九—七三年二分一厘增	一八七三—九六年二分減	一八九六—一九一三年二分三厘增
7 コンソル公債利廻	一八六六—九七年三分四二—二分四五	一八九七—一九二三年二分四五—三分四一	

前表に據るに、第二項以下の六項は金貨の人口一人當の著しく增進せざる第一幷に第三の兩時期に於て、增加率甚だ少なく、又減少したる時期に於て、增加したることを推窮するを得べし。

一方に、金貨の增進したる第二幷に第四の兩時期に於て、增加したることを推窮するを得べし。

金の產出は戰爭に依て何等の影響を蒙る可き

ものに非ず。蓋し其產出地が歐洲以外の地方に在るが故にして、千八百九十九年より千九百二年に至る間、ボーア戰爭に依て生じたる影響の如きは、除外例を以て見る可きものなり。金の產出額は千九百十二年を以て、九千七百四十萬磅に達し、從來の記錄を打破したるが、其後千九百十三年より同十五年に至る三年間に於ては九千五百萬磅、九千三百五十萬磅、九千六百九十萬磅を數へ、千九百十六年には九千九百萬磅に達し、千九百十七年には一億磅に上るものと推測せらる。思ふに將來に於ける金の產出額に就ては、金鑛業地方に戰爭起るか、又は新鑛山發見せらるゝか、二者の一を以てせざれば、世人を驚かすものなかる可し。一方に工業上の目的を有する金の消費額は近年に於ては一年二千五百萬磅と計算せられ、又印度埃及等の金吸收高は千九百十年には二千四百三十萬磅、千九百十一年には二千七百六十萬磅、千九百十二年には二千九百四十萬磅に居りたるが、爾後減少し、千九百十四年には八百四十萬磅に、千九百十五年には五百六十萬磅と爲れり。即ち工業上の消費額と埃及印度の吸收高とを合せたるものを以て、千九百十六年に於て二千萬磅、千九百十七年に於て三千萬磅、爾後四千萬磅とし、一方に上記の產出額ありとすれば、千九百三十年に至る金貨の累積高は左表の如く爲る可し。

	金貨累積高	世界の人口	人口一人當
一九一五年	一、七三〇百萬磅	一、七五〇百萬人	一九志片
一九二〇年	二、〇五〇	一、八二五	二二 六
一九二五年	二、三二〇	一、九〇〇	二四 五
一九三〇年	二、五七〇	一、九七五	二六 一

故に現戰爭の如何に拘はらず、千八百九十三年乃至同九十七年以後發生しつゝある經濟的要素は將來多年に亙つて繼續す可きものとす。唯戰爭の爲めに、物價、所得、賃銀等が金產出額增加の齎すよりも大なる程度に於て騰貴するは當然の勢にして、戰爭の繼續中は騰貴の勢を大にし、戰時に於ける騰貴の大なりしだけ、平和時代に於ける反動を大ならしむるに至る可し。

然れども今回の戰爭終熄後とナポレオン戰後とを比較するに、其間に事情の相違著しきものあることを認めざる可からず。蓋し一世紀以前に於ては金產出高は停滯的地位に居り、金貨の累積高亦著しからず、加利福尼幷に濠洲に於て金鑛の發見せらるゝまで、商工業は不景氣を脫せず、戰爭の影響を回避す可き作用に缺くるものありたりと雖も、今や金貨の累積高は著しく、將來增加するの徵候あり、故に戰後に於ける經濟上の打擊の如き、其分量に於て、又其時期に於て、共に制限せらる可く、一時の打擊の終れる時に於ては、物價の平準點の如きは、戰前に比較して、却て其高きを見る可きなり。

五　外國爲替

千九百十五年七月以後に於ける爲替の動搖を聯合國、敵國幷に中立國の三者に區別して、觀察するに、此期間磅爲替は聯合諸國に於ては、常に現送點を超過して打步を生じ、中立國に於ては現送點に居るか、又は其以下に居れり。戰爭以前に於ては爲替相場を調節する爲め、金貨を現送する費用は狹隘なる限度內に上下するに止まれりと雖も、開戰後運賃保險料共に騰貴したるに加へて、日々變動し、現に五月中の或る一日に於て和蘭宛金貨の保險料は前日に比して二倍し、又イー、エル、フランクリン氏の說明に從へば、千九百十六年五月十七日に於ける金貨運賃幷に保險料の增率は佛蘭西一分八分の一、和蘭三分、伊太利一分二厘五毛、露西亞四分乃至五分、西班牙二分、瑞西一分、と爲れる狀態なりしを以て、玆に戰時金貨現送點なるものを生じ、千九百十三年と比較し、現送點は右比率だけ低く、其以下に爲替相場の低落したるときに、金貨の輸出を惹起して、以て調節を得ること

ゝ爲れり。今千九百十五年七月より千九百十六年五、六月に至る倫敦爲替最高最低相場

戰前并に一九一五年七月以降一九一六年六月に至る倫敦爲替最高最低相場

	戰爭前の相場	期日	開戰以後の期日	最低	期日	最高
紐育	四、八八五	一九一五年九月一日	一九一六年一月十九日	四、五二	一九一六年一月十九日	四、七七二五
和蘭	一二、一四	一九一六年一月七日	一九一五年七月一日	一〇、四六	一九一五年七月一日	一一、九五
スカンヂナヴヰア	一八、二五	一九一六年五月十日	同	一五、一五	同	一八、三〇
西班牙	二六、一五	同	七月三十一日	二二、七五	同	二五、九七
瑞西	二五、一八	同	同	二四、六六	七月一日	二五、九〇
巴里	二五、一八	一九一五年七月十九日	一九一六年四月十四日	二六、四〇	同	二九、〇三
伊太利	二五、三〇	一九一五年七月十四日	同	二九、二〇	同	三二、三〇
彼得具	九六、一〇	同	一九一六年二月五日	一二八	同	一六四
			一月四日			

爲替相場の變動は或る重大なる原則に服從す可きものなりと雖も、其細目に就ては、對外債務の關係に基く特殊の原因に支配せらるゝ點あり。第一聯合諸國に就て見るに、諸國は軍隊の必要とする物資の供給を豐富ならしむるの必要より、輸入の增加を來し、殊に佛國に於ては、敵國軍隊に領土の一部を占領せられたる爲めに駐屯する英國軍隊の費消金に依て、一部の恢復を求めつゝありとす。伊太利に至ては、外國旅客費消金の減損に加ふるに、外國移民の送金杜絶を以てし、アイノーヂ氏は是等二樣の損失を以て、年額十億乃至十二億リラに居る可しと計算したり。金貨を輸出して、國際貸借に於ける不利の狀態を匡正するは、英國以外の國に於ては、之を行ふ能はず、輸出の增進亦戰時內國の生產力に對して、大なる壓迫の加へらるゝ場合に於て、之を望むこと困難なりとすれば、戰前に行はれ來れる輸入を減縮して、以て救濟の道を求めざる可からず。然も外國貿易に關する報告に徵するに、不利なる貿易の差額の增進して已まざること左表に揭ぐる合衆國と英、佛、露、伊諸國との輸出入貿易に依て、之を知るを得べし。（單位一千弗）

對手國	一九一三年 輸入	一九一三年 輸出	一九一三年 合衆國より輸出超過	一九一五年 輸入	一九一五年 輸出	一九一五年 合衆國より輸出超過	一九一三年に對する一九一五年の增加 輸入	一九一三年に對する一九一五年の增加 輸出
英吉利	二七一、九五五	五九〇、七三二	三二八、七七七	二五八、二九六	一、一九一、五九六	九三三、二七三	六〇四、四九六	四〇七、〇三七
佛蘭西	一三八、九三三	一五三、九二二	一四、九八九	七七、九一八	四九九、九四四	四二二、〇二六		
露西亞	二二、三二二	二五、九六五	三、六四三	二、四三三	一二四、六三三	一二二、二三〇	一一八、五八七	
伊太利	五五、三二二	七八、六七五	二三、三五三	五八、五五九	二七〇、六六八	二一九、一〇九	一九五、七五六	

紐育宛倫敦爲替相場は千九百十五年七月と千九百十六年四月とを比較するに、共に平準相場に對して、二分の割引を示し、金貨の輸出せらる可き狀態に居りたるが、右の期間內に於ける特殊の期日に相場の變動したる程度は頗る大なる可き狀態に居りたるが、右の期間內に於ける特殊の期日に相場の變動したる程度は頗る大なに下落し、九月一日には四弗五十二仙に下落し

て、開戰以來最低の記錄と爲れり。玆に於てか時局に應ずる政策を講ずるの必要認められ、千九百十五年十月十五日五億弗の英佛公債、紐育に於て發行せられ、十月一日より十二月三十一日に至る間、合衆國に向つて、英蘭銀行の取付けられたる金貨は一千七百萬弗を數へたり。是等計畫の實行中爲替相場の變動を見るに、九月中旬より十月中旬に於ては、四弗七十二仙半より四弗六十八仙の間を上下し、十月二十五日に四弗六十三仙に下落し、後四弗六十五仙に恢復したる後、再び十一月一日に至りて四弗六十二仙半に下落したり。斯る狀態は內外諸國に於て大なる注意を惹起し、現にロリア氏の如きは、之に對して「自然の傾向は不利なる貿易差額を決濟するに、金貨の輸出を以てせざる可からずと雖も、金貨の輸出を妨害するの事實あらんか此事の起るを望む能はず、當時の英國は金貨の輸出を行はしめざる本位制度を有したるものなり」と評したり。然らば倫敦は戰爭の故を以て、其自由金市場たるの誇を擲たざる可からざるか。蓋し世界に產出せらるゝ金の三分の二は大英帝國の版圖內に在るものにして、隨て爲替取引を外にして、英國は年々新に產出せらるゝ金の六千萬磅を支配するの地位に立てりとす可し。今戰時に於て金は內國流通上の用途より節約せられ、曩に通貨維持の爲めに要せられたる金の不用と爲れると共に、輸出の餘裕を大ならしめたるを以て、銀行の準備金又は政府紙幣の準備金として必要なる部分を除き、金貨を外國に輸出するに就て、特に妨害を加ふるの必要を存するものと認む可からず。而して世間の一部に於ては金貨を輸出し、又は其輸出を促すが如き所業を以て、愛國心に反するが如くに考ふる者ありと雖も、事實に於ては、千九百十六年三月末日に終る九箇月間に於て英蘭銀行の取付けられたる金貨は七千萬磅に及びたり。現に紐育クロニクルが千九百十六年七月一日の誌上に於て「今や英國金融上の實力は二樣の方面に發現しつゝあり。第一聯合諸國の爲めに行ひつゝある巨額の物資代金を支拂ふ爲めに、金貨幷に有價證券を備ふるの能力あること、第二戰爭の繼續に必要なる巨額の資金が醸集せらるゝこと是れにして、昨年中既に合衆國に金貨を輸送したるものゝ大なる後を承け、更に本年五月以來一億五千萬弗の金貨を輸送したり」と云へり。

思ふに爲替調節の方法たる可きものを求めんか、金貨を輸出することも、對手國との間に於ける貿易上の不利なる差額を減縮することも、外債を發行することも、有價證券を賣却することも、其方法たるを失はず。然も合衆國に對して多額の金貨を輸出せんか、同國に於ける諸物價を騰貴せしむ可きを以て、英國は軍事上の必要より、合衆國に就て買入るゝ物資に對して、支拂ふもの益々大ならざるを得ざる可く、隨て此調節策は貿易の逆勢を大ならしむるに終らざるを得ず。外債募集に就て考ふるに、千九百十五年末に於ける外債の如き、適當の條件を以て、成立せざりしの事例あり。又輸入を制限し、一方に輸出を增加するは、終局の効果ありと雖も、尙ほ或る時期を要さゞるを得ず。玆に於てか紐育市場の購入す可き有價證券を賣却するの方法は千九百十五年の秋季以來行はれ、其結果は直に爲替相場に現はれ、十一月一日と同月三十日とを比較するに、相場は四弗六十二仙半より四弗七十仙半に騰貴したり。然も有價證券の輸出をして組織的ならしむる爲め、政府は千九百十五年十二月十七日幷に同二十一日を以て、弗證券の動員計畫を制定公布し、大藏省は直接に弗證券を買入るゝか又は其預託を受け、必要に應じて之を合衆國に賣却することゝしたるが故に此計畫は直に爲替相場を左右し、同年十二月十三日相場は四弗七十七仙と爲り、千九百十六年一

月九日より六月末に至る間常に四弗七十六仙乃至四弗七十七仙の邊を上下したり。而して千九百十六年五月に至るや、政府は更に此計畫に於ける歩を進め、大藏省の公示したる目錄に該當する弗證券にして賣却又は預託の爲めに國庫に提供せられざるものに對しては證券より生ずる所得一磅に付き二志の割合を以て、附加所得稅を課することゝしたり。

斯くて是等の計畫は爲替を矯正する目的を達したるが如しと雖も、尙ほ矯正策の根柢は之を輸出の增進と輸入の減縮とに求めざる可からず。而して後者に就ては、政府は或る輸入を禁止し、又は制限するの處置に出でたるが、本來國際貸借は終局に於て均衡を求む可く、不利なる貿易の差額も亦調節せらる可きものなり。蓋し弗證券が賣却せられ、又は擔保として使用せらるゝ一方に、英國が合衆國に公債を募集せんか、戰爭前に英國が金利又は配當金の形態に於て有したる無形の輸出は自ら減少し、戰後之を塡補する爲め、有形的輸出を爲すか、又は輸入を減縮するを要す可しと雖も、勞働不足の今日に於て、前者を望むは甚だ難く、後者亦一般人民の力に依て始めて行はる可きなり。

以上對米爲替に就てのみ論述したるが、和蘭、丁抹、瑞典、諾威諸國に對する爲替は如何と云ふに、本來聯合諸國は直接にも又間接にも金の獨逸に輸送せらるゝを妨害することを以て其政策とするものにして、現に英國政府の如き敵國に輸送せられざるの證言を得て、始めて金貨を和蘭港灣に輸送するの方法を取り、當に自國內の金貨のみに止まらず、合衆國其他諸外國より輸送せらるゝ金貨にも同樣の制限を施すが故に、和蘭に輸送せらるゝ金貨は貿易上の差額を決濟するに足らず、千九百十六年一月七日に於ては、爲替相場は十グルデン四六の低きに至りて、一割三分二厘の割引を示し、五月七百萬磅の大藏省證券、和蘭の買收する所と爲り、同月末爲替相場十一グルデン七に恢復し、三分の割引と爲れり。瑞典、諾威、丁抹は爲替に關して同樣の地位に居るものとす可し。即ち千九百十六年二月瑞典政府は國立銀行の金買入に關する義務を免除する法律を制定したり。是れ對英輸出の增加に基き、瑞典に多額の金貨流入し來りて、通貨の膨脹を招くの勢を阻止するの必要に出でたるものにして、四月に至り、諾威、丁抹亦同樣の處置に出で、諸國の銀行紙幣は金貨に比較して、若干の打歩を有し、瑞典の如き千九百十五年七月に於ては十八クロノール一六の平準相場に對して、十八クロノール三〇に居れる爲替が、九月に至りて平準と爲り、千九百十六年四月二十六日には十五クロノール八〇と爲りて、一割九分一厘の割引を示したり。

獨逸に於ける海上貿易の減縮は獨逸の紐育幷に和蘭に對する爲替相場に大なる變動を惹起さしめたり。即ち獨墺兩國の封鎖は總て軍事的價値ある貨物の兩國に到達することを妨げ、一方に兩國の輸入はバルチック海を經由する地方以外に及ぶ能はざるに至れり。隨て合衆國に對する獨逸貿易に於ても亦戰爭の影響を受けたること論を俟たずと雖も、同時に獨逸に隣接する諸國に對する合衆國の貿易に就て一考せざる可からず。蓋し合衆國の物資にして、中立國を經て獨逸に輸入せられたるものあればなり。今、合衆國と獨逸、墺地利匈牙利、和蘭、丁抹、諾威瑞典との貿易に就て、千九百十三年と千九百十五年とを比較するに、左の如し。（單位一千弗）

對手國	一九一三年 輸入	輸出	超過	一九一五年 輸入	輸出	超過
獨逸	一八四、二一一	三五一、九三〇	一六七、七一九	三三、一六四	四四、九五三	一一、七八九
丁抹	二、四六七	一八、六一七	一六、一五〇	——	二、七四三	七三、一一五
						七〇、三八二

和蘭	三七、六三九	一二一、五五二	八三、九一三	―	二八、四九四	一四三、一三一	一一四、六三七
諾威	八、四一二	九、二五六	八四四	―	六、九八二	四六、八七二	三九、八九〇
瑞典	一一、八七五	一三、五八六	一、七一一	―	一一、三七四	八四、八〇七	七三、四三二
墺匈國	一九、〇八四	二二、二四四	三、一六〇	五、二二一	五、三二五	一〇四	―

右の表に據れば、米獨兩國間の貿易は千九百十五年に於ては、千九百十三年に比較して、約十分の一に低減したることを知る可し。然れども獨逸に隣接する諸中立國に對する合衆國の輸出の增加したる事實に顧みるときは、千九百十五年に於ては諸國の合衆國より輸入したる物資の獨逸に輸送せられたることを示すものとす可く、隨て合衆國に對する獨逸外國貿易の減少は世間の想像するが如く大ならざる可し。然も聯合諸國と獨逸とを對照し、聯合諸國の爲替相場に於ける低落が異常の輸入に基くに反し、獨逸に於ては輸入減少して、尙ほ爲替相場の逆勢に居るは何故なりや。蓋し獨逸は爲替相場の調節を求むる爲めに、大なる程度に於て、金貨を輸出するを回避したり。而して開戰當初アムスターダム幷に紐育に於て、獨逸は巨額の外國有價證劵を賣却し、以て一時の急に應じたるが、一方より云ふときは、此事たる、千九百十五年の終に至り、獨逸をして是等有價證劵より生ずる利子を喪失し、無形の輸出を減縮するに至らしめたることを否定す可からず。中立諸國に對する獨逸爲替の低落は通貨の價格下落を示すものにして、獨逸が平和恢復後永く金貨本位制に復歸せざる以上は、此狀勢永續せざるを得ざる可し。

貧困論

「貧乏物語」を讀む

小泉信三

十餘年前讀賣紙上に連載されたる「社會主義評論」以來河上博士が持つ數多き愛讀者の一人たる私は博士が最新の著作「貧乏物語」を實に期待を以て讀んだ。而して私は己れの期待が欺かれざりしことを喜んだ。巧妙なる話說と、實に朗々誦す可き流暢無比の文章とに魅せられて全編三百餘頁を殆ど一氣に通讀し、終に最後の頁の最後の一行を讀み終へたるとき、自分は常に學問文藝上の優れたる作品を讀みたるときにのみ感ずる一種の滿足を感じた。良書を讀んで好い事をしたと感じたのである。私は此滿足を感じつゝ玆に其紹介の一文を草す可く筆を執る。

未だ之を讀まざる者に此書を薦め、既に讀みたる者に向つては稍々詳らかに讀後の感想を語らんが爲めである。

河上博士は我經濟學者中稀れに見る名文家を以て知られて居る。けれども私は信ずる自分――少くも私一個――が博士の文章に魅力を感ずるのは其文字の技巧（或は技巧のみ）によるのではなくて、その觀察に於ける機警と思考に於ける獨創との故を以てゞある。私は決して博士の着眼觀察を以て常に當を得たりと信ずるものではない。後進吾々の如きすら、博士の唱へらるゝ學說の中に服し難きものを見出すことは決して一二にして止まらぬけれども、併乍ら博士の學說に對しては如何に異見を懷抱するものと雖も、博士が今日の學界に於て最も特色ある學者の一人なることは必ず之を否まぬであらう。博士の作物には常に良かれ惡しかれ其著者の顯著なる個人的色彩が現はれて居る。而して此個